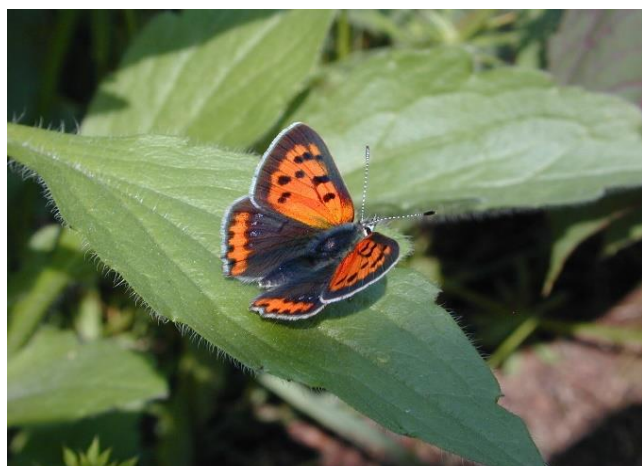
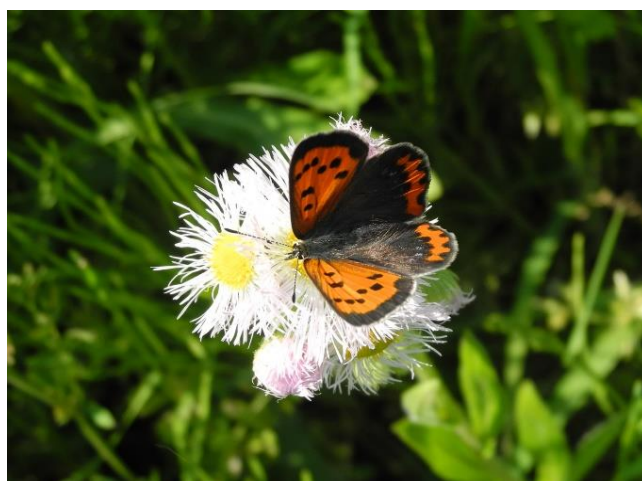


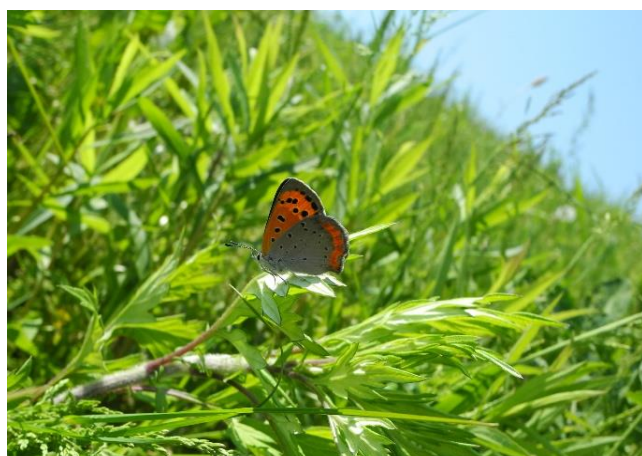
和名	分類	特徴ほか	会える場所											
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他								
ベニシジミ	シジミチョウ科	緑に映えるダイダイ色の輝き	○	◎	○	全国								
			成虫発生時期 (月)											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草		食樹	発生回数/年		越冬形態									
ギシギシ、スイバ			4~5		幼虫									



川崎市 多摩川土手 (中野島) 4月27日 (2003年)  
春型のダイダイ色の輝きがまぶしい



川崎市 多摩川土手 (中野島) 5月5日 (2013年)  
ハルジオン (写真) やタンポポによくとまる



川崎市 多摩川土手 (中野島) 5月5日 (2013年)  
羽の裏も緑に映える



川崎市 多摩川土手 (中野島) 5月5日 (2012年)  
タンポポの綿帽子にとまる。もう蜜はないのに・・・

身近な蝶で最も春の喜びを感じる蝶のひとつがベニシジミです。多摩川土手では3月上旬ころから見かけるようになり、春から秋にかけて年に数回発生します。

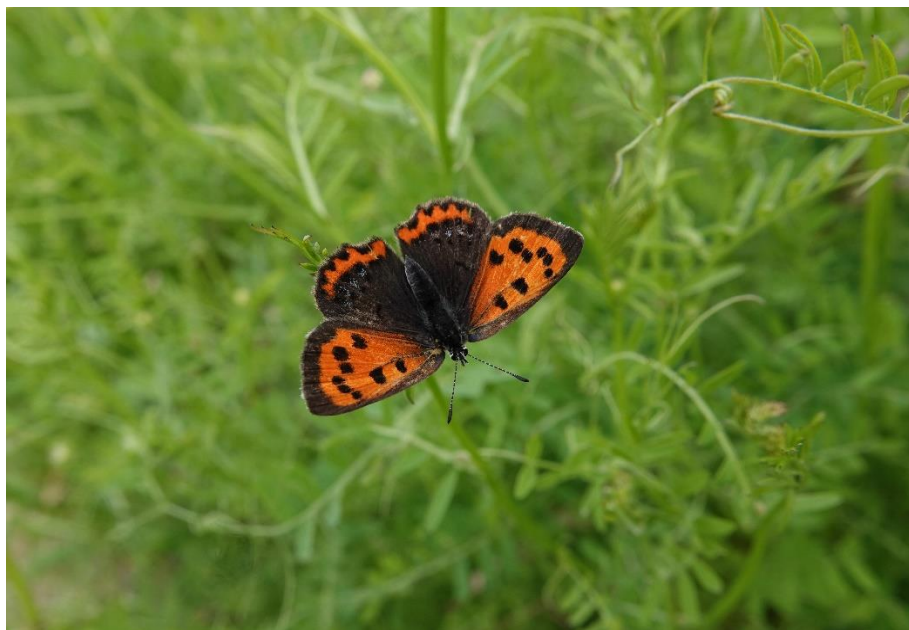
食草は土手に生えるギシギシやスイバ。春型はダイダイ色が特に鮮やかで目を引きますが、この色は夏にかけてどんどん黒化し、晩秋にはまた鮮やかな輝きに戻ります。メスの羽はオスに比べるとやや丸みを帯びることで区別できます。

飛び方はかなり速いのでダイダイ色が目立つ春型でも飛んでると黒っぽくしか見えませんが、運良くとまって羽を開いたところを見つければこの蝶のファンになること請け合いです。



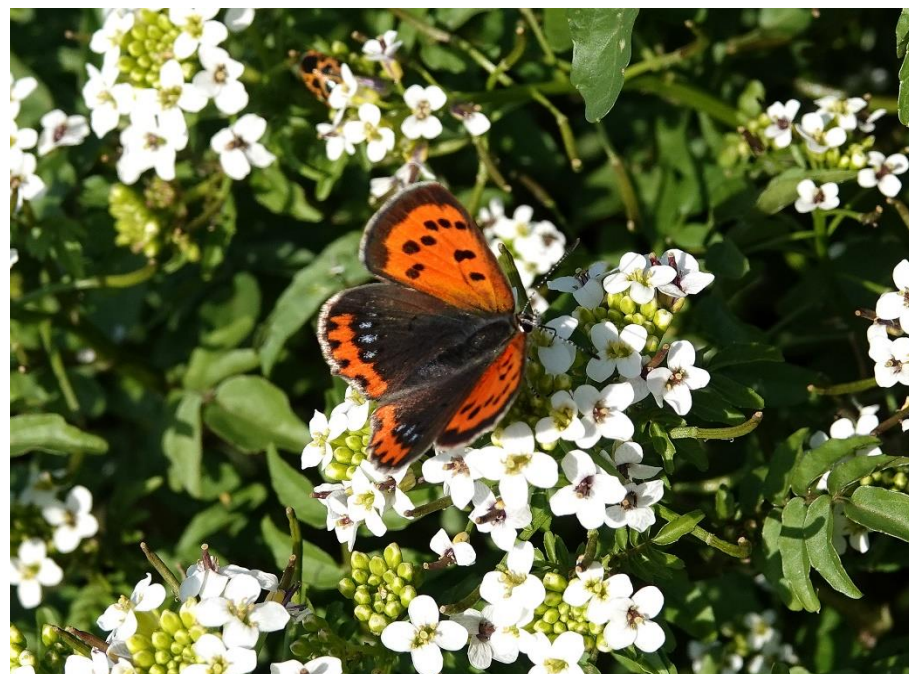
←川崎市 多摩川土手（稲田堤）  
4月7日（2020年）  
早春の鮮やかな橙

↓ 川崎市 ニヶ領用水  
4月21日（2021年）  
ギシギシに産まれた卵



←川崎市 多摩川（中野島）  
4月17日（2020年）  
河川敷のナヨクサフジ上を飛ぶ

↓川崎市 多摩川（中野島）  
5月13日（2021年）  
終齢幼虫（飼育）



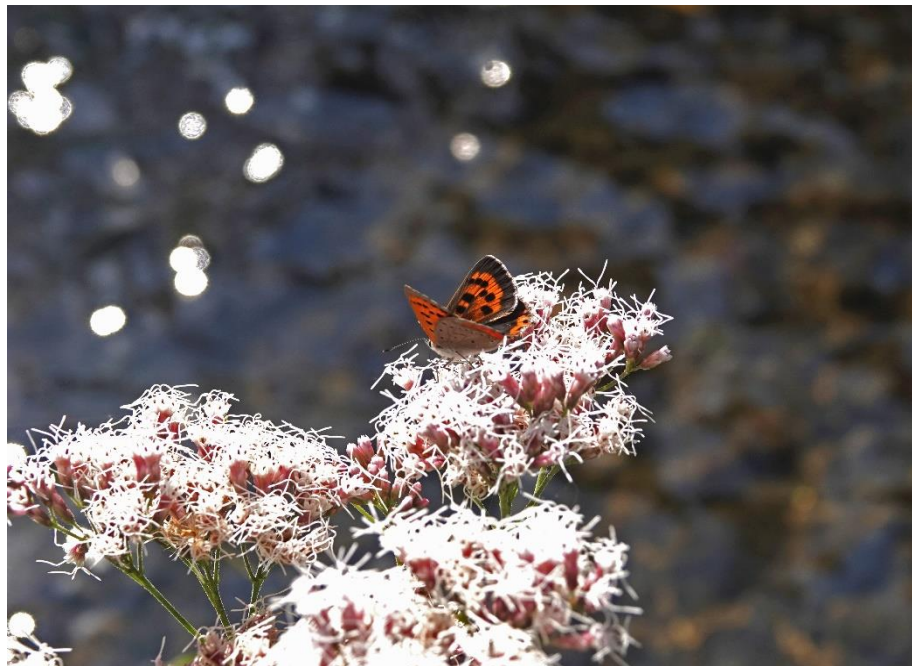
←川崎市 多摩川（中野島）  
4月15日（2021年）  
河川敷のクレソンで吸蜜

↓川崎市 多摩川（久地）  
11月18日（2022年）  
センダングサに飛来





←川崎市 多摩川土手（中野島）  
8月21日（2021年）  
夏には黒化し、その後、晩秋  
に鮮やかな橙が復活する



←川崎市 ニヶ領用水  
11月6日（2021年）  
ヒヨドリソウで吸蜜



←川崎市 多摩川土手（中野島）  
11月13日（2022年）  
晩秋に復活した鮮やかな橙。  
ただ、気温も下がりやがて  
蝶は力尽きる。

後を追っている幼虫たちが  
越冬して早春に新しい蝶が  
羽化するという永遠の営みが  
繰り返される。